科目コード	61410	授業科目	母性・小児保健看護特論Ⅱ Maternal and Child Health Nursing Theory Ⅱ	担当教員	○未定 （母性） 未定 （小児）		
開講年次	博士後期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選 択（領域必修）	時間数	30時間				
授業概要	乳幼児・子ども・青少年、妊産婦、女性とその家族が一般に経験する健康問題を検証するために正常な生涯発達・家族発達の理解を基礎におく。文献検討により、上記対象の健康信念、健康行動、包括的保健看護ケアシステムに焦点を当てる。小児と家族問題および女性問題の研究、問題解決の評価、健康に関する生涯発達的および生態学的観点の統合を通して看護理論の発達を考える。						
到達目標	1. 小児、妊産婦および一般女性における健康問題に気づくことができる。 2. 上記の健康問題を包括的に分析できる。 3. 適切なケアマネジメントプログラムに可能な看護支援を統合できる。 4. いくつかの選択的健康問題に関する研究アプローチを特定できる。 5. 発達理論を健康の維持・増進・回復と結びつけることができる。						

回数	授業内容及び計画	担当者名
第1回	母性の心理	未定
第2回	母親役割の獲得/母子関係の成立①	（母性）
第3回	母親役割の獲得/母子関係の成立②	（小児）
第4回	母子関係に関する実験的研究	
第5回	家族とは何か	
第6回	子どもと家族①	
第7回	子ども虐待と家族②	
第8回	母子関係の障害	
第9回	子どもと家族の健康問題解決に応用可能な生涯発達的および生態学的理論①	
第10回	子どもと家族の健康問題解決に応用可能な生涯発達的および生態学的理論②	
第11回	子どもの養育が困難な家族に対する保健看護サービスプログラムの評価と理論化	
第12回	急性期及びターミナル期にある子どもと家族に対する保健看護サービスプログラムの評価と理論化	
第13回	慢性疾患を有する子どもと家族に対する保健看護サービスプログラムの評価と理論化	
第14回	障害を有する子どもと家族に対する保健看護サービスプログラムの評価と理論化	
第15回	まとめ	

テキスト	Hockenberry & Wilson eds.Wong's Nursing Care of Infants and Children. 9th .Mosby,2010 他
参考文献	参考書、文献等は別途指示する。
成績評価の方法	評価は授業への参加など及び課題に関するレポート、プレゼンテーションの内容に基づいて行なう。
備考	事例検討、文献抄読などはゼミ形式で行なう。

<table>
<tr><td>科　目
コード</td><td>61420</td><td>授業
科目</td><td colspan="3">母性・小児保健看護特別研究Ⅱ
Mother and Child　Health
Nursing Special Study Ⅱ</td><td>担当
教員</td><td colspan="2">◎未定（母性）
◎未定（小児）</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td>博士後期課程
1～3 年次</td><td>単位数</td><td>８単位</td><td rowspan="2">科目
分類</td><td rowspan="2">専門科目・特別研究</td><td rowspan="2">授業
形態</td><td rowspan="2" colspan="2">演習</td></tr>
<tr><td>選択必修</td><td>選択（領域必修）</td><td>時間数</td><td>240 時間</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="8">母性・小児保健看護領域において院生自ら研究課題を設定し、文献検討、研究対象と方法、技法を選択し、データを収集・分析し、結果を考察して論文を完成し、自立した研究者となることを学習する。あるいは高度な実践能力を修得し、卓越した実践家として必要なコンピテンシーを探究し、専門領域で学際的アプローチをとれ、リーダーシップを発揮できるとともに、疾病の有無にかかわりなく子ども及び母親のおかれた状況、健康上の問題、支援方策を実証的に探究する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1. 専門領域において、最新で意義のある研究課題を設定できる。
2. 研究課題に関する文献を探索でき、統合できる。
3. 研究課題に適した最新の研究方法・分析方法を選択し、実施できる。
4. 結果を母子保健看護の視点から広く深く考察できる。
5. オリジナリティのある卓越した論文を完成できる。
6. 教育研究者・実践者としてふさわしい倫理観や倫理的態度を身につけることができる。</td></tr>
<tr><td>回　数</td><td colspan="6">授　業　内　容　及　び　計　画</td><td colspan="2">担当者名</td></tr>
<tr><td>1 年次

3 年次</td><td colspan="6">4 月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション
研究指導教員希望届の提出・決定 ＊
履修指導、履修届の提出 ＊

関心あるテーマ周辺の文献探索と検討
研究テーマの明確化・研究計画書作成

毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊
研究倫理審査申請 ＊
研究フィールドの依頼と決定
データ収集・分析

11 月（5 月）　仮テーマの提出 ＊
主査・副査の決定
考察･論文作成
12 月（6 月）　博士論文 第１稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊
1 月（7 月）　中間発表会 ＊
博士論文 最終稿 の提出 ＊
2 月（8 月）　論文審査・最終試験 ＊
合否および修了判定
3 月（9 月）　公開発表会 ＊
博士論文 保存版 の提出 ＊
※（　）内は、前学期修了者の日程</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="8">関連資料、文献などを適宜配布、指定する。</td></tr>
<tr><td>参考文献</td><td colspan="8">必要に応じ参考文献、参考資料などを配布する。</td></tr>
<tr><td>成績評価
の方法</td><td colspan="8">審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td colspan="8">注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。
◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。</td></tr>
</table>